

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスクあざみ野保育室
経営主体(法人等)	(株)日本保育サービス
対象サービス	横浜保育室
事業所住所	〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘 5-31-6
設立年月日	平成9年7月1日
評価実施期間	平成24年7月～25年2月
公表年月	平成25年4月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p><園の概要・特徴></p> <p><立地及び施設の概要></p> <p>生後3ヶ月から2歳児を対象とした、定員42名（在籍39名）の横浜保育室（横浜市が認定し助成する認可外保育施設）である。平成9年に開所し、平成20年に株式会社日本保育サービスに経営主体が移行した。</p> <p>東急田園都市線、横浜市営地下鉄「あざみ野駅」から徒歩15分、閑静な住宅地に立地し、子ども達の散歩コースには、自然豊かな公園などがある。</p> <p>この保育室は別の3歳児から5歳児を対象とする幼児施設と園舎や園庭を共同で使用し、当保育室は主に1階部分を使用しており、「こどもには情熱をもって、その心をよく観察し、創意工夫して、優美に接しましょう」を保育理念として掲げ、理念に沿った保育を実践している。</p> <p><特徴></p> <p>モンテッソーリ教育に基づく、教具（木製の玩具など）での遊びや「ボタンはめ」など、集中して作業を行う「お仕事」の時間を設けている。また、隣接の武道場を使用しての「リズム」、ネイティブ（自国）の指導員による「英語」、クッキング保育など、多彩なプログラムを実施している。</p> <p>【特に優れていると思われる点】</p> <p>1. 子どもの育ちを支える環境作り</p> <p>子どもの持つ、育とうとする力を支えるための観察や工夫、穏やかな態度を保育理念として掲げ、泥んこ遊びなど様々な体験の場の設定や、季節によってデイリープログラムを変更するなどの工夫で、のびのびと活動できる環境整備に努め、子ども達の育ちを支えている。また、職員は注意深く観察し、一人一人の子どもの気持ちや状況の把握を行い、必要以上の援助を避けるなど、子ども自らが力を発揮できるよう援助している。</p> <p>職員は日々、理念に沿った保育を確認しあい、子ども達は落ち着いた園生活を過ごしている。</p> <p>2. 信頼関係に繋がる保護者と協働しての運営</p> <p>長い実施期間を設けての参加型参観や、土・日・祝日に実施される懇親会や行事、保護者に参</p>	

加を呼びかけての教材作りや行事の準備作業など、保護者が保育に参加できる機会を多く設け、園の保育への理解を図っている。また、施設名変更など運営上の決定の際には、緊急アンケートや保護者代表との繰り返しの意見交換を行い、保護者の意向を反映している。

保護者と協働しての運営の姿勢は、保護者の園への信頼に繋がり、福祉サービス第三者評価調査、利用者家族アンケートでも園への高い評価が見られる。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1.関係機関との日ごろの連携

障がいを持つ子どもや、虐待が疑われるケースへの速やかな対応に備え、地域療育センターの巡回相談の利用や、児童相談所から定期的に情報を得るなど、関係機関との日ごろの連携が望まれます。

2.地域への働きかけ

育児相談を実施し、門扉に貼り出して案内していますが、現在まで見学者以外からの相談はありません。園情報の積極的な発信により園への理解を図り、地域の子育て支援にも繋げることが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

<p>1.人権の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本人を尊重した、保育理念・園目標を掲げ、それに沿った理解しやすい言葉かけなど穏やかな保育が行われている。 ・保育業務マニュアルに、人権や権利の否定について具体例を挙げて注意を促し、毎年職員はマニュアルの読み合わせを行なっている。子どもの人格を尊重し、気持ちに配慮した援助について、職員会議やクラスミーティングなどで確認しあい、気になる言動があれば注意しあっている。 ・職員は個人情報保護や守秘義務について研修を受け、守秘義務についての誓約書を提出している。個人情報に関する記録類は、事務室の鍵のかかる棚に保管し、廃棄にあたってはシュレッダー処理している。 ・遊びや持ち物、グループ分けや整列などに性別による区別はない。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室には、発達に応じた玩具や絵本が、自由に取り出せるように置かれている。保育室の広さなどを考慮して0歳児の定員は6名とし、1、2歳児は、発達に応じてそれぞれを2グループに分け、各保育室を仕切り、遊びや活動によって少人数で落ち着いて遊べるようにしている。 ・苦手な食材でも、無理のない程度を口に出来るよう声を掛け、食べられた時にたくさん誉め、自信に繋げている。授乳は欲しがる時に出来るだけ同じ職員が一定の場所で行っている。給食当番活動や、クッキング保育で食事への関心を育てている。 ・眠れない子どもには午睡を強要せず、保育中に眠くなってしまった子どもは時間に拘わらず寝かせている。 ・散歩、食事、午睡の前後などにトイレ誘導をするが、子どもたちは行きたい時に職員に声を掛け、トイレに行っている。トイレトレーニング中には、オムツにするかパンツにするか、子どもの意思を尊重し、おもらしの際などにも、子どもの気持ちを傷つけない配慮をしている。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前の面接の記録や、保護者から提出を受けた文書をもとにした、担任間の話し合いで、子どもの情報を共有し保育に活かしている。指導計画は、担任間の話し合いをもとに、また保護者の意向を反映し、子どもの発達や状況に応じた作成・評価・見直しを行っている。個々の発達や健康などの記録

	<p>は、取り出しやすくファイルして保育に活用し、進級時にはこれらをもとに申し送りを行なっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員はアレルギー・虐待・障がい児対応などの研修を受け、全職員が情報共有し、ケース会議で個々の子どもの状況や対応を話し合っている。 ・園への要望を聞くアンケートを頻繁に実施し、また、保護者との会話からも苦情や要望に繋がるものは記録し、各種会議で対応策を検討し、実行している。アンケート結果や、要望・苦情とその回答は、書面で保護者に周知している。 ・青葉区福祉保健センターなどから感染症の最新情報を得て、全職員に周知している。園内での発生は、掲示して保護者に知らせている。 ・設置法人の園長で構成される安全委員による、年数回の安全点検を受けている。毎月、災害の種類や発生時間帯を変えた通報、避難などの訓練を行い、緊急連絡時のフローチャートや、関係機関一覧表を各保育室に掲示し、また、園の緊急時連絡用携帯電話に保護者のメールアドレスなどを登録している。 ・怪我は、小さなものでも保護者に伝え、記録し、職員会議で改善策を話し合い、実行している。かかりつけ医や保護者の緊急連絡先は取り出しやすく保管している。 ・警備会社と契約し、園内に防犯カメラを設置し、オートロックの玄関ドアはモニターで来訪者を確認して開錠し、園外保育の際には職員が緊急通報装置を携帯している。同じ建物内にある幼児施設と共に、警察の協力を得ての不審者対応訓練を行っている。 ・毎日、その日のクラスでの活動を掲示し、毎月「園だより」「クラスだより」などを配布して、保護者に子どもの園生活に関する情報を提供している。各クラス、保護者面談や保育参観日を、2歳児クラスでは、保護者が保育士体験をする参加型参観の期間を設け、また、廊下からの参観をいつでも受け入れている。登園時の保護者からの情報や、保育中の様子は、毎日申し送りノートに記載して引き継ぎ、職員間や保護者との確実な情報共有、連携をとっている。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人のホームページに、園の概要や利用料金、保育の様子を掲載し、「青葉区地域子育て支援拠点ラフール」に園での1日の流れなどを載せたパンフレットや、料金表を置いて情報提供している。 ・青葉区の園長会などで、地域の子育て支援ニーズを把握し、職員会議で話し合っている。見学者からの育児相談や、年間通算30件ほどの、一時保育の利用がある。年1回施設長がラフールで子育て中の保護者に育児情報を提供している。 ・近くの商業施設に、夏祭りや運動会など、園の行事のポスターを掲示して地域住民に知らせている。今年の夏祭りには卒園児など、20組ほどの親子の参加があった。散歩中に出会った近隣住民と積極的に挨拶を交わし、近隣との関係構築に努めている。 ・見学は、出来る限り希望者の希望の日時で行い、要望があれば、園の保育に支障の無い範囲で、見学時に在園児との交流の時間を設けている。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人のホームページや、パンフレットで園の情報を提供している。 ・設置法人内に委員会を設置し、法人全体でコンプライアンスに取り組んでいる。他施設で起きた不正や不適切な事案の情報を、各種会議で全職員に周知し、園の運営やサービスを見直している。 ・設置法人のホームページで、法人の経営や運営に関する情報を公開している。園の運営状況については、保護者代表が出席する運営委員会で報告を行い、議事録や事業報告書を園内に掲示して保護者に知らせている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な意思決定にあたっては、職員間の検討とともに、運営委員会で協議し、議事録の掲示や手紙などで保護者に説明している。施設名変更の際には、保護者アンケートを取り、数回の運営委員会での協議を経て決定し、運営委員会議事録の掲示や手紙で保護者に報告した。 ・保護者の意見や、地域の情報、職員の自己評価、福祉サービス第三者評価調査結果などを分析し、長期計画目標、中期計画を策定している。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経験や職責に応じた役割の期待水準が、「人材育成ビジョン」に明文化され、それに則った階層別研修を行っている。また職員は、マニュアルの読み合わせや保育理念の理解などの園内研修、法人が企画する自由選択の研修、姉妹園での実地研修などに参加している。 ・職員は、法人作成の、階層別や自由選択制の研修計画などをもとに、施設長のアドバイスを受け、個々の研修計画を作成し、計画中には年間の成長目標を記載し、半年ごとに達成度の評価を行い、次年度の目標設定に繋げている。年2回、保育技術などの査定を行なっている。 ・非常勤職員も、希望すれば研修に参加できるが、勤務体制などにより参加が難しいため、各種会議議事録の回覧や、研修レポートの閲覧、クラスミーティングでの、知識や情報の伝達による資質向上を図っている。 ・各種会議で活発な意見交換が行なわれ、施設長は、年2回の面接を行い、個々の職員の意見や要望、満足度を把握している。

評価機関による評価(案)



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者本人を尊重した、「こどもには情熱をもって、その心をよく観察し、創意工夫して、優美に接しましょう」を保育理念に、「・健康な体をつくる ・豊かな感性を育てる ・優しい心を育てる」を園目標に掲げ、園内に掲示し、職員には入職時などの研修や折に触れての指導で、その達成のための園の取り組みや職員の姿勢などを周知している。年2回、職員の理念・目標の理解確認を行なっている。 保育課程は、子どもの最善の利益の視点に立ち、また、理念・目標や、保護者の要望を踏まえた、五感への刺激による発達や、子ども達が関わる機会の少ない中学生との交流など、子どもを取り巻く環境に配慮している。毎年、全正規職員による見直しを行い、保護者懇談会で保護者に説明している。 丁寧な子どもへの観察に基づく理解しやすい言葉かけなど、理念・目標に沿った、穏やかな保育が行われている。
I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 入園前に施設長や担任予定職員との面接を行い、また保護者から生育歴や家庭での状況、園への要望などを記入した、文書の提出を受け、職員は個々の子どもの情報を共有し、日々の保育に活かしている。 入園直後には、個々の状況に合わせた短縮保育を行っている。0歳児には一人一人、出来る限り決まった職員が授乳を行い、1歳児クラスでは、新入園児、進級児それぞれに、担当する保育士を置いている。家庭で使っている抱っこ紐など、子どもの心理的拠りどころとなるものを持ち込めるようにし、保護者との詳細な情報のやりとりなどで、入園当初の子どもの気持ちや、家庭と園との生活の連続性に配慮している。 指導計画は、クラスミーティングでの話し合いや、個人面談などから把握した保護者の意向を反映し、子どもの発達や状況に応じて作成・評価・見直しを行い、施設長の確認を受けている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> 1歳児の新入園児についても、園生活に慣れるまでは個々の子どもについての主担当を決め、気持ちの安定を図ることが望まれます。 他クラス担任も参加しての指導計画の評価、見直しが期待されます。

I-3 快適な施設環境の確保



・衛生管理マニュアルに則った、定期的な清掃や玩具の消毒を行い、チェック表で実施確認し、清潔が保たれている。隣接する建物により、やや日当たりの悪い所はあるが、各室大きな窓があり、室内に陽光を遮るものは置かれていない。各保育室や廊下の温湿度計を定期的にチェックし、エアコンや加湿器での室温・湿度の管理、また、空気清浄機の設置や、窓を開けての定期的換気など、環境整備を行っている。職員の声は落ち着き、不要な音楽も流さず、落ち着いて過ごせる環境になっている。

・1、2歳児は、発達に応じてクラスをそれぞれ2グループに分け、また、保育室を1歳児クラスでは3つ、2歳児クラスでは2つに仕切り、遊びや活動によってはグループに分け、少人数での保育を行っている。保育室の広さなどを考慮し、0歳児の定員を6名としている。

・沐浴設備・温水シャワーを備え、0歳児は、夏季にはバスタブを園庭に置き、温水を使って水遊びを行い、汗疹などの対策ともしている。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・全園児について個別指導計画を作成し、保護者の意向から、当初の予定よりやや早目のトイレトレーニングを開始し、様子を共に確認し計画の変更を行なったケースなど、計画には保護者の意向を尊重している
- ・定期的な発達チェックや様子の記述での発達状況の記録、身体測定や健康診断の結果、既往症など健康状況の記録、それぞれを取り出しやすくファイルしている。これらのファイルは事務室の鍵の掛かる棚に保管し、保育に活かしている。
- ・進級時にはこれらの書類をもとに、個々の子どもについての情報をクラス毎に一覧表にした文書を全職員に配布し、職員会議で申し送りを行なっている。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み





- ・青葉区に障がい児受け入れを申し出ているが、虐待や障がいを持つ子どもの受け入れ実績は無い。
 - ・職員は、特に配慮を要する子どもの保育についての各種研修を受講し、レポートの提出や職員会議での報告で、全職員が情報共有している。また、毎月のケース会議で、個々子どもの状況や対応について話し合っている。
 - ・障がい児受け入れについての、法人内の発達支援アドバイザーからの支援体制がある。
 - ・虐待が疑われる場合などの連携のため、関係機関リストを作成している。子どもや保護者の様子に注意を払い、園全体で見守る体制をとっている。
 - ・医師の診断書を添えた除去食申請書の提出を受け、栄養士を交えた面談や個々の献立表の確認など、保護者と連携して、除去食を提供している。提供時には、器には名前を書いたラップをかけ、職員間で確認しあい、他の子どもとはテーブルを分け、誤食のないよう見守っている。
 - ・英語のプログラムや、海外の子どもの作品紹介など、子ども達の異文化への興味、関心を育てている。
- <コメント・提言>
- ・地域療育センターの巡回相談の利用や、児童相談所から定期的に情報を得るなど、関係機関との日ごろの連携が望まれます。

I-6 苦情解決体制



- ・苦情受付・解決の窓口を、書面で保護者に知らせている。解決困難な場合の設置法人や自治体への相談、連携など、対応を定めている。
 - ・子どもの表情などから気持ちを汲み取り、保護者には話しやすい雰囲気作りを心がけ、要望の把握に努めている。園への要望を聴くアンケートをとり、また保護者との会話から「保護者からの意見 苦情に繋がる案件」の記録を残している。
 - ・アンケート結果は集計し、要望は回答とともに、全保護者に書面配布している。苦情・要望は各種会議で対応策を検討し、実施している。
- 福祉サービス第三者評価調査、利用者家族アンケート「保育や行事に、保護者の要望は活かされているか」の項目には、全回答者が「満足」あるいは「どちらかといえば満足」と回答し、園がアンケートで要望を聴いてくれることへの評価の声が見られる。
- <コメント・提言>
- ・園の苦情受付体制や、他機関の苦情解決窓口は、園内に掲示して保護者に知らせるとさらに良いでしょう。また、苦情受付窓口担当は職員から選任すると良いでしょう。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが手に取りやすい位置に、発達に応じた玩具を置き、興味や季節に合わせ、配置換えや入れ替えを行っている。0歳児保育室には障害物を置かず、掴まり立ちや伝い歩きが出来るよう、柵を設けている。 ・個々の興味、関心に配慮して、それぞれに遊びこめるよう援助するとともに、順番やおもちゃの貸し借りなどの約束事を伝え、ルールを守ってみんなで遊ぶ楽しさを知らせている。「おおきなかぶ」の絵本で子ども達が興味を持った、物を引っ張ることを、運動会のカブを引っ張る競技に発展させるなど、子ども達の発想や興味を集団活動に取り入れている。 ・夏季には泥んこ遊びを楽しむなど、毎日園庭で遊び、雨の日には、保育室でマットや跳び箱で身体を動かしている。また発達に応じ、音楽にあわせて身体を動かす、「リズムの時間」を設けている。散歩では、地域の人々や自然に触れ、トマトや枝豆など野菜の栽培や、カメの飼育など、動植物と触れ合い、全クラス合同のお誕生会などで異年齢交流を行っている。 ・室内では薄着に努め、無理強いしない程度に裸足での保育を行っている。毎朝、保護者に子どもの体調を聴き、個々の状態に合わせて保育している。 ・職員は園の保育理念に沿い、温かい態度で子ども達に接し、信頼関係を築いている。 ・福祉サービス第三者評価、利用者家族アンケート、「日常の保育内容について・遊びについて」の評価は高く、「クラスの活動や遊びについて（お子さんが満足しているかなど）」、「子どもが戸外遊びを十分しているか」については、全回答者が「満足」あるいは「ほぼ満足」と答えている。
<p>Ⅱ－１ 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な食材でも無理のない程度を口に出来るよう声を掛け、食べられた時に褒めて自信に繋げている。授乳は、欲しがる時に、出来るだけ同じ職員が一定の場所で行い、時間、量などを伝え保護者と連携をとっている。給食当番活動や、クッキング保育で食事への関心を育てている。 ・毎月、設置法人の栄養士が参加しての給食会議で、喫食状況などを討議し、栄養士が各園の給食会議を参考に、献立を作成している。ミネラルウォーターの飲料水、契約農家から直送される米など、できるだけ国産の食材を使用し、各食材の産地を掲示して保護者に知らせている。「献立表」や「給食だより」の配布、給食サンプルの展示、試食会などでも保護者に食の情報を提供している。 ・眠れない子どもには午睡を強要せず、早く起きてしまった子どもなど、起きている子どもは別の部屋で静かに遊び、保育中に眠くなった子どもは時間に拘わらず寝かせている。 ・散歩、食事、午睡の前後などにトイレ誘導をするが、子どもたちは行きたいときに職員に声を掛け、トイレに行っている。トイレトレーニング中には排泄チェック表をつけ、リズムを把握し、会議で報告し、クラス担当以外の職員も個々のトレーニング状況を把握している。園での排泄の状況は連絡ノートに記入し、保護者と連携をとっている。トレーニング中には、オムツにするかパンツにするか、本人の意思を尊重し、おもらしの際などにも子どもの気持ちを傷つけない配慮をしている。 ・福祉サービス第三者評価、利用者家族アンケート、「日常の保育内容について・生活について」の保護者の評価は高く、「給食の献立内容について」、「昼寝や休息がお子さんの状況に応じて対応されているか」、「お子さんの体調への気配りについて」には、全回答者が「満足」あるいは「ほぼ満足」と答えている。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



・入園時に、保護者から子どもの健康状態を記入した、「個人健康調査票」の提出を受けている。入園後の健康診断や身体測定の結果は「個人健康記録票」に記録して保護者に渡し、予防接種や罹患の情報を記入して園に返却される。健康診断前には保護者から質問票の提出を受け、嘱託医の回答を健康診断結果と共に記載し、保護者に伝えている。これら健康に関する帳票は、一人一人の子どもについてまとめ、全園児分を一括してファイルし、事務室に保管し、保育の参考になっている。

・連絡ノートや口頭で、保護者に保育中の健康状態を知らせて対応を話し合い、翌朝保護者から様子を聞いている。保護者から得た情報や、保育中の様子は、申し送りノートに記載して引き継ぎ、職員間や、保護者との確実な情報共有、連携をとっている。

・食後の歯磨きは、1歳6ヶ月ころから開始し、職員が仕上げ磨きをしている。また、紙芝居などを利用した、虫歯予防の指導をしている。

・感染症対応マニュアルの読み合わせを行い、青葉区福祉保健センターなどから感染症の最新情報を得て、全職員が情報共有している。保育中に感染症の疑いが認められた時は、速やかに保護者に連絡し、安静にして迎えを待っている。園内での感染症発生は、保育室入り口に病名と発生人数を掲示し、保護者に知らせている。

<コメント・提言>

・歯科健診の実施が望まれます。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



・設置法人作成の衛生管理マニュアルは、各園の意見を基に、園長会議で毎年見直しが行われている。

・施設長は、設置法人で行われるマニュアルの研修に参加し、職員会議で伝え、参加できなかった職員には、議事録の確認や、クラスミーティングでの情報伝達が行なわれている。また、毎年、衛生管理マニュアルの職員による読み合わせを行っている。

・マニュアルに基づき、清掃チェックシートを活用しての清掃や消毒を行い、各クラスにアルコールスプレーを置き、給食室は定期的に害虫駆除を行っている。職員は出勤時に、衛生管理マニュアルに基づいた、自身の衛生チェックを行っている。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]





・安全管理マニュアルの読み合わせを行い、全職員が周知している。年数回の、設置法人の園長で構成される、安全委員会委員による安全管理チェックシートを使った点検を受けている。


・毎月、災害の種類や、発生時間帯の想定を変えての、通報、避難などの訓練を行っている。避難場所に隣接する公園を、散歩コースの一つとして避難に備え、緊急連絡時のフローチャートや、関係機関一覧表を各保育室に掲示し、園の緊急時連絡用携帯電話に、保護者から携帯アドレスなどの登録を受け、速やかな連絡に備えている。10名の職員が救急救命法を修得している。

・保育中の怪我に備え、かかりつけの医療機関の連絡先や、保護者の緊急連絡先を記録し、保管している。小さな怪我でも保護者に細かく説明し、記録し、職員会議で改善策を話し合い、実行している。

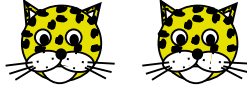
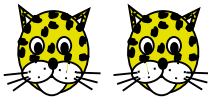
・警備会社と契約し、園内に防犯カメラを設置し、オートロックの玄関ドアは、モニターで来訪者を確認してから開錠している。遭遇場面別の対応を定めた、不審者対応マニュアルを作成し、園外保育の際は緊急通報装置を携帯するなど、不審者への対応策を講じている。同じ建物内にある幼児施設と合同での不審者対応訓練を行い、昨年度は警察の協力を得ての訓練を、2回行った。不審者の最新情報は、青葉区福祉保健センターからファクスで送信されている。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、クラスミーティングなどで、子どもの人格を尊重し、気持ちに配慮した穏やかな援助について確認しあい、気になる言動があれば注意しあっている。保育園業務マニュアルでも人権・権利の否定について、具体例を挙げて注意を促し、職員はマニュアルの読み合わせを行なっている。模倣期にある子ども達を意識し、職員間の言動にも注意を払っている。 ・入社時などに、個人情報保護や守秘義務についての研修を行い、入、退職時には、非常勤を含む全職員から守秘義務についての誓約書の提出を受け、ボランティア・実習生からの誓約書提出も定めている。園の個人情報の取り扱いについて、入園時に書面で説明し、保護者の了解を得ている。個人情報に関する記録類は、事務室の鍵のかかる棚に保管し、廃棄にあたってはシュレッダー処理し、保育中の子どもの写真はID・パスワードを使用し、保護者へのインターネット販売を行っている。 ・遊びや持ち物、グループ分けや整列などに性別による区別はない。性差について気になる言動が見られた際には、職員間で互いに注意しあっている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・性差への固定観念排除の視点から、互いに保育を振り返る機会を設けることが期待されます。
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の保育理念・園目標は、入園時配布文書への記載や、保護者会などでの説明、園内への掲示で保護者に知らせている。また、アンケートで保育理念についての保護者の意見を聞いている。 ・子どもの様子や保育中のエピソードを、送迎時や連絡帳への記載で伝え、保護者との連携をとっている。申し送りノートを使用した引継ぎで、職員間や、保護者への必要事項の伝え忘れが無いようにしている。 ・毎日、その日の活動内容を各保育室入り口に掲示し、毎月、行事や日常の保育の様子の写真をインターネット掲示し、毎月の「園だより」「クラスだより」「保健だより」などの配布で、保護者に子どもの園生活に関する情報を提供している。 ・年2回、保護者の希望をいれた日時で、個人面談を実施している。保育参観日を設けているが、廊下からの参観はいつでも受け入れ、2歳児クラスでは、保護者が保育士体験をする、参加型参観の期間を設けている。保護者会は土、日、祝日に行い、保護者会後にクラス懇談会を行い、最近のクラスの様子を知らせる書面を配布して説明している。参加できなかった保護者には、議事録や説明書類を配布し、会の様子を伝えている。 ・保護者の意見も参考に、年間行事予定表を作成し、年度初日に保護者に配布し、「園だより」に当月の行事予定を載せている。



評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長が青葉区の園長会に出席し、地域の情報を収集し、地域の子育て支援ニーズについて把握し、職員会議などで話し合っている。 ・一時保育を実施し、年間30件程度、現在は0、1歳児2名の利用がある。「子育てのお悩みおうかがいします」の案内板を園の門扉に掲示し、園の見学者からの育児相談がある。 ・「青葉区地域子育て支援拠点ラフル」と連携し、年1回施設長がラフルに集まる子育て中の保護者に、育児情報を提供している。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り、運動会、親子遠足に卒園児を招待し、また近くの商業施設にポスターを掲示して、園の行事を地域住民に知らせている。今年度の夏祭りには、卒園児など、20組ほどの親子の参加があった。 ・散歩中に出会った近隣住民と挨拶を交わし、また年1回、近隣商店で子ども達がクッキング保育の食材を購入するなど、近隣との関係構築に努めている。地域に向けての園についての情報提供の取り組みはない。 ・リズムの保育プログラムに隣接の剣道道場を、運動会や園外保育には、「鷺沼公園」や「子どもの森」など、地域の施設を活用している。園舎、園庭を共有している幼児施設とは、運動会や避難訓練を合同で開催するなどの交流がある。 ・山内小学校の運動会や、あざみ野ホールの催し物などのパンフレットを、園内に置いて保護者に知らせ、地域の活動への参加を支援している。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への園についての情報提供や、近隣とのさらなる関係強化の取り組みが期待されます。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人のホームページに、園の概要や利用料金、保育の様子の写真を掲載し、園の情報をわかりやすく提供している。「青葉区地域子育て支援拠点ラフル」に、園の1日の流れなどを載せたパンフレットや、料金表を置いて情報提供している。 ・利用希望者からの問い合わせには、随時見学できる事を伝え、ホームページでも案内している。見学対応は施設長が行い、施設長不在時には、職員が園の保育方針、利用条件、サービス内容などが記載された、パンフレットに則って説明している。見学は出来る限り希望の日時で行い、要望があれば園の保育に支障の無い範囲で、在園児との交流の時間を設けている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の情報提供媒体への情報提供が期待されます。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富な保育士を各クラスのリーダーとし、経験の浅い保育士や派遣保育士、非常勤職員との複数担任となるよう配置している。産休や離職が予定される際には、設置法人に連絡し、速やかに補充している。 ・設置法人が、保育士人材育成ビジョンに則った、階層別、また、自由選択制の研修計画を作成している。職員は法人作成の研修計画などをもとに、施設長のアドバイスを受け、個々の研修計画を作成し、計画中に年間の成長目標を記載し、半年ごとに達成度の評価を行い、次年度の目標設定に繋げている。 ・職員は、マニュアルの読み合わせや、園の保育の方針理解などの園内研修、設置法人や青葉区の企画する研修、姉妹園での実地研修に参加している。また姉妹園との「0歳児担当会議」に参加し、他園の実践を園の保育に活かしている。 ・非常勤職員も希望すれば研修に参加できるが、勤務体制などにより参加が難しいため、各種会議議事録の回覧や、研修レポートの閲覧、クラスミーティングでの、知識や情報の伝達による資質向上を図っている。
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任は各指導計画の振り返りを行い、それを踏まえて次期計画を作成している。また、毎日のクラスミーティングなどで、互いの保育技術や保育実践について評価、検討し、また、年2回、個々の査定を行っている ・毎年、福祉サービス第三者評価調査を受審し、園の自己評価を行っている。新人職員も多く、保育方針の再確認や、個々のスキルの強化が必要であるとの自己評価結果の分析を踏まえ、中期計画には園の保育理念のもととなっている、モンテッソーリ教育についてなど、各種研修の強化を掲げ、実行している。 ・他園園長などによる、保育技術の評価、指導を受け、また姉妹園との交流で得た、工夫・改善事例を参考するなど、職員の資質向上に取り組んでいる。0歳児クラスで、「昼食後の子ども達が落ち着かない」との職員の実践の振り返りから、職員会議などで検討し、0歳児は一斉の午睡とはせず、眠くない子どもは隣室で遊ばせ、眠くなった子どもから布団に誘導することとし、子ども達に落ち着きが見られたケースなど、職員の気づきを園全体の問題とし、サービス向上に繋げる姿勢と取り組みが見られる。 ・福祉サービス第三者評価結果は、エントランスに置いて公表している。

V-3 職員のモチベーションの維持



- ・経験や職責に応じた役割の期待水準を明確にした、「人材育成ビジョン」が作成され、それを評価基準とした自己査定や施設長、エリアマネージャーによる査定を行っている。
- ・各クラスの運営はクラスリーダーを中心に行い、状況に応じた判断と対応、施設長への報告を行なっている。各種行事や係りの役割分担は、職員会議で検討して決定し、各行事は担当職員が企画書を作成して実施している。
- ・各種会議で活発な意見交換が行なわれ、施設長は職員からの提案を聴いている。また、施設長は年2回、職員一人一人と面接し、意見、要望や満足度を把握している。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則に、倫理規律・服務規律が明記され、職員は研修を受けている。設置法人内にコンプライアンス委員会を設置し、法人全体でコンプライアンスに取り組んでいる。 ・設置法人の、経営や運営に関する情報は、法人内の園長会や法人ホームページで報告、公開され、職員会議で職員に伝達されている。園の運営状況については、運営委員会での報告や、議事録、事業報告書の園内への掲示で、保護者に知らせている。 ・他施設で起きた、不正や不適切な事案の情報は、会議で全職員に周知し、園の運営やサービスを見直している。これら問題事案について、必要に応じて全職員がリポートを作成し、コンプライアンス意識向上を図っている。 ・園内の書類は、できるだけ裏紙を使用し、園の夏祭りでは、保護者から提供を受けた不要な絵本や服のリサイクルコーナーを設けるなど、ゴミの減量化、リサイクルに取り組んでいる。また、チェックシートを活用して、閉園時のコンセントの抜き忘れが無いようにし、こまめにエアコンや照明を切るなど、節電に努めている。 ・保育課程に「環境教育」の項目を設け、計画的に子ども達の身近な資源を大切にする気持ちを育てている。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長は、職員入職時や年度初めなどに、園の保育理念や園目標についての研修を行い、面接で個々の職員の理解を確認している。 ・重要な意思決定にあたっては、職員間での検討とともに、保護者代表が参加する運営委員会での協議と、全保護者に向けての説明を行っている。施設名変更の際には、保護者アンケートを取り、数回の運営委員会での協議を経て決定し、運営委員会議事録の掲示や手紙などで、保護者に目的や理由、経過を説明した。また、職員会議で検討し決定した、「午前のおやつ提供時間の変更」については、「年度前半の子どもの不安定な気持ちや、暖かい季節には早めに外遊びを始められるよう配慮して時間を早めていたが、子ども達も落ち着き、外も寒くなってきたので本来の時間に戻したが、昼食の喫食状況をみてまた検討する」など、「園だより」で説明を行った。意思決定にあたっての保護者との意見交換や、丁寧な説明の姿勢が見られる。 ・園舎改修の際に、栄養士を含めた職員のチームで検討を行ったケースなど、重要事項には園をあげて取り組んでいる。 ・各クラスに経験豊富なリーダーを置き、リーダーは共に保育を行うことで、個々の職員の能力や状況などを把握し、助言や指導、また個々への配慮を行っている。

VI-3 効率的な運営



- ・保護者の意見や、地域の情報、職員の自己評価、福祉サービス第三者評価調査結果などを分析し、長期計画目標や中期計画を策定している。「様々な人々の中で子ども達を育てる」などの長期計画目標に沿い、中期計画には、地域交流や職員の積極的な研修参加を掲げ実行している。
- ・設置法人の園長会で、法人内の課題や方針などの情報伝達や検討が行われ、施設長が得た情報は、リーダー会議で検討している。リーダーは情報や決定をクラスに持ち帰り、毎日のミーティングで話し合い、クラス運営に反映している。月1回の職員会議でも情報の伝達や検討が行われ、0歳児の定員減については、保育環境などについて各会議で繰り返し話し合い、決定し実施した。
- ・設置法人は外部機関や専門家などの意見を取り入れ運営に活かしている。

利用者家族アンケート

施設名:アスクあざみ野保育室

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数39名、全保護者35家族を対象とし、回答は23家族からあり、回収率は66%だった。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収した。

◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、肯定的な回答が100%（満足96%、どちらかといえば満足4%）と高い満足度であった。

◇ 比較的満足度の高い項目

1) 保育園に関する年間の計画について、設問2項目の肯定的な回答はいずれも100%と高い評価を得ている。

2) 園と保護者の連携・交流について、7項目の設問全体の肯定的な回答は、99%となっており、「園の行事の開催日や時間帯への配慮について」は同94%を除く6項目については、100%の高い評価であった。

3) 職員の対応について、5項目の設問全体の肯定的な回答は99%で、「あなたのお子さんが大切にされているかについて」、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについて」、「意見や要望への対応について」はいずれも100%と高い評価を得ている。

4) 日常の保育内容 遊びについて、6項目設問全体の肯定的な回答は97%で、中でも「クラス活動や遊びについて」、「子どもが戸外遊びを十分しているかについて」はいずれも100%の高い満足度であった。

5) 日常の保育内容 生活について、8項目設問全体の肯定的な回答は97%で、中でも「給食の献立内容について」、「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかについて」、「お子さんの体調への気配りについて」はいずれも100%の高い満足度であった。

◇ 比較的満足度の低い項目

1) 保育園の快適さや安全対策について、4項目設問全体の肯定的な回答は94%となっているが、「施設設備について」は否定的な回答が13%、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」は同8%あり、何らかの対策が必要である。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	39%	57%	4%	0%	0%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	95%	5%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	87%	9%	0%	0%	4%	0%
	その他: 兄弟がいるので見学していない					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	83%	13%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	83%	17%	0%	0%	0%	0%
	その他: 丁寧に説明してもらった					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	91%	9%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	78%	18%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	91%	0%	4%	0%	5%	0%
	その他: 駐車場の決まりについて説明不足					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	61%	39%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	78%	22%	0%	0%	0%	0%
	その他: アンケートをとってくれている					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	91%	9%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	91%	9%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	87%	9%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	74%	22%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	83%	13%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	74%	22%	4%	0%	0%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	96%	4%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	96%	0%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	91%	5%	4%	0%	0%	0%
	その他:保護者の消毒についてわかりやすい所に置いてほしい					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	87%	13%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	74%	17%	0%	0%	9%	0%
	その他:まだその年齢ではない					
お子さんの体調への気配りについては	96%	4%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	83%	13%	0%	0%	4%	0%
	その他:ケガをしたことがない					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
施設設備については	43%	39%	13%	0%	5%	0%
	その他: 日当たりが悪い。耐震性が心配。					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	78%	22%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	35%	57%	8%	0%	0%	0%
	その他: 少し不安がある					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	78%	22%	0%	0%	0%	0%
	その他: 発生や感染を防ぐ話し合いが必要					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	83%	17%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	87%	13%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	87%	9%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	83%	17%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	83%	17%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	87%	13%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	96%	4%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	91%	9%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	96%	4%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	74%	9%	4%	0%	9%	4%
	その他:アレルギーがないのでわからない					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	91%	5%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	91%	9%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	96%	4%	0%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

アスクあざみ野保育室

◇0歳児

園庭遊び

まだ、歩行が完全でない子どもが一人、植栽のそばの柔らかい土の上に座り、土に手を入れて遊び続けている。その間、職員の一人がそばにしゃがんで、子どもを見守っている。

他の子どもたちは、玩具の自動車に乗ったり、泥遊びをしたりそれぞれに遊んでいる。もう一人の職員が着かず離れずに見守り、玩具の取り合いには双方に穏やかに声を掛け、援助している。

ボールを片付け始めた職員を見て、一人の子どもが急いでボールを拾い、職員の持つ袋に入れた。職員は袋の口を子どもの方に向け「お片付けしてくれるの。ありがとう」と声を掛ける。子どもは園庭のあちこちにあった大きなボールを拾っては、袋に入れに来る。「〇〇ちゃんのお陰でお片付けができた」と職員に声をかけられ、満足そうな表情だった。

食事・午睡

職員は昼食前に眠くなった子どもをおぶって、配膳や他の子どもたちの援助をしている。おぶわれて眠った子どもを布団に寝かせる。

離乳食の段階で分けた2テーブルに、一人ずつの職員がつき、子ども達が自分で食べるのを見守っている。スプーンを上手に使っている子ども、手づかみで食べる子どもと、様々である。職員は、「かみかみね」と、笑顔で最小限の言葉かけや援助をしている。

食べ終わった子どもから、隣室で遊び、眠くなった子どもは、保育室の布団に誘導され、優しく背中をトントンしてもらいながら眠りについた。

昼食を食べずに寝てしまった子どもが目覚めると、職員は調理室に「〇〇ちゃんの給食お願いします」と取りに行き、保管されていた給食を暖めてもらい提供した。

◇1歳児

食事

食事は名前のついたトレーに配膳され、子どもたちはカボチャの煮物をフォークで切って食べたり、手で食べたり、職員に口に入れてもらったりして食べ、

嬉しそうな表情であった。

食事中に泣き出した子どもがいたが、職員から「眠くなったのね、早く食べて寝ましょう」と促され、泣きやんで食べ始めていた。

子どもは「どちらをお代わりする」と、職員にご飯とおかずを見せてもらい、食べたい方を指で示していた。

食べ終わった子どもは歯磨きをして、パジャマに着替えていた。

◇2歳児

リズム

子どもたちは職員に手伝ってもらいコートを着て、隣接の道場へ出かける。

道場では職員と一緒に音楽に合わせて思い思いに走ったり、飛び跳ねたり、スキップをしたり楽しんでいる。リズムに合わせて、乗り物や動物などいろいろなものになって、歓声を上げながら体を動かしている。うまく表現できないで立ち止まる子どもや、黙って見ている子どももいたが、職員は優しく見守り、子どもが自然に興味を持つのを待っている。

子どもたちはリズムの始めと終わりにみんなで挨拶し、職員と一緒に道場を後にした。

園庭に戻ると、サンタクロース姿の英語の先生とすれ違い、「サンタクロース」と声を上げて喜ぶ子どもや、驚いて泣き出す子ども、怖がって職員にしがみつく子どもと様々であった。

英語教室

道場から帰って英語のプログラムが始まる。子どもたちは先生と一緒に「スノーマン」「キャンディー」「ケーキ」など会話を楽しみ、音楽に合わせて、楽しそうにクリスマスの歌をうたったり、踊ったりしていた。

帰り際に、子どもたちは一列に並び、英語であいさつをしながら、手の甲にスタンプを押してもらい、嬉しそうに子ども同士で見せ合い喜んでいた。

食事

子どもたちは給食の歌をうたい、「いただきます、ありがとうございます」と食べ始める。

最初は静かに食べていたが、「今日外でサンタクロースを見たよ、歩いていたよ」「○○ちゃんは泣いたんだよ」「僕の家にはサンタさん来るよ」と会話を楽しみ、お代わりをしたり、職員に手伝ってもらったり、ほめてもらったりしながら、楽しい雰囲気の中で給食を食べていた。

H24年度第三者評価事業者コメント（あざみ野保育室）

【受審の動機】

以前、第三者評価を受審した際に、今までの園運営を振り返ることができ、また今後の課題を見出すためには有効な手段だと感じたので、今年も引き続き受審させていただきました。

また、評価機関の選定については、昨年と同じ機関に評価を依頼し、一貫した調査を受けることによってより比較がしやすいと考えました。

運営主体の理念の一つとして、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を元に保護者のニーズを把握しながら、日々の運営に反映させるべく評価受審に臨みました。

当園は、横浜保育室に認定されてから今年で16年目にあたります。皆様にご理解ご協力いただきましたおかげで、明るく活気あふれる園になっていると感じております。今後も常に利用者のニーズに耳を傾け、子どもたちや保護者に親しまれるようなアットホームな園でありたいと考えております。

【受審した結果】

自己評価での個々や自園の見直しは、問題をクリアにしていく上で大変重要であり、新たな気づきが得られる良い機会となりました。全職員が同時期に「保育」を見直すことで、運営方針や理念、今後園の目指していく方向性を再確認することができました。このことで、職員の意識が高まり、保育の質の向上につながっていくと感じています。

また、今回の保護者アンケートの中で、「保護者との連携・交流」「職員の対応」「子どもが園生活を楽しんでいるか」等の項目で高い評価をしていただき、大変嬉しく思います。今後も引き続き、保護者の皆様にこのような評価をいただけるよう努めてまいります。

主に0歳児から2歳児までの入所を対象とする横浜保育室では、実施・実現が難しい評価項目もありますが、その中でも、今後は子ども達が安全に楽しく活動が出来る環境の見直ししていきたいと考えております。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。